

-Index- 第14回「きこえない」を知る二日展報告 vol.2

- ・デフリンピック
- ・好きなスポーツ やってみたいスポーツ

See-Through Captions

(筑波大学 デジタルネイチャー研究室 / xDiversity)



紙上報告 (vol.2)

第14回「きこえない」を知る二日展

前号に引き続き、第13回「『きこえない』を知る二日展」の展示内容および当日の様子について、お伝えします。

デフリンピック



ろう者自身が運営する ろう者のための国際的な競技会

今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、大変盛り上がりましたが、デフリンピックについてはご存知でしょうか？ 今回の展示会では、一般ろう者が選手の活躍を期待し、大きな感動を受ける国際競技会である、デフリンピックについてご紹介しました。

2015年冬季大会ハンティ・マンシースク（ロシア）および2017年夏季大会、サムスン（トルコ）で行われた競技を、ピクトグラムで紹介しました。

夏季大会では、陸上競技・バドミントン・バスケットボールなど、冬季大会では、クロスカントリースキー・アイスホッケー・カーリングなど、多くの競技で選手の活躍する姿が見られました！

デフリンピックへの出場は、ろうの選手の最大の誇りであり、一般ろう者が選手の活躍を期待し、大きな感動を受ける国際競技会（4年に1度開催）です。参加者が国際手話によるコミュニケーションで親睦を深められるところに大きな特徴があります。



<視覚的保障>

競技のルールはオリンピックと同じですが、音や審判の笛がきこえないため、プレーするうえで大きなハンディになってしまいます。その状況を視覚的に補うことが「視覚的保障」となります。フラッシュランプや旗などで、競技場に必要の音声や審判の合図を知らせています。

(例) 視覚的保障

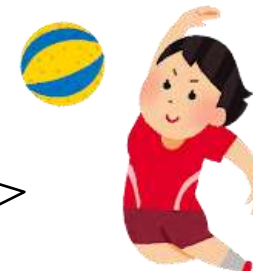
- 陸上競技や水泳競技
→ フラッシュランプを使って選手にスタートを知らせる
- サッカーやラグビー
→ 審判が笛を吹くとともに旗または片手を挙げることで、反則が起きたことを選手に知らせる
- バレーボール
→ 審判がネットを揺さぶることで、プレーを中断する合図を出す



<参加資格>

デフリンピックへの参加資格は、補聴器や人工内耳の体外パーツを外した裸耳で、きこえやすい方の耳の平均聴力レベルが **55dB 以上の聴覚障がい者** となっています。日本は全日本ろうあ連盟の登録者のうち、国内のデフスポーツ競技団体ごとに行われる選考競技会にて、記録や順位などを満たした選手に出場資格が与えられます。

公平性の観点から、競技会場に入ったら、練習時間や試合時間に関係なく、補聴器等を装着することは禁止されています。



<出場方法>

デフリンピックへの参加資格を満たしている場合に、どのような流れで出場することができるのでしょうか？デフリンピック出場までのステップは、次のようになります。

- STEP 1 デフリンピックの情報を得る
↓
STEP 2 デフスポーツ競技団体や自分が住んでいる都道府県ろう協会に相談する
↓
STEP 3 競技団体が実施する合宿もしくは大会に参加する
↓
STEP 4 各競技団体が定める強化指定選手の条件をクリア
↓
STEP 5 強化指定選手として登録し、デフリンピックに向けた強化合宿に参加
↓
STEP 6 日本代表選出、デフリンピック出場



<デフリンピックの開催地>

デフリンピック
つき かいさいち
次の開催地は？

2022年5月1日～15日
カシアス・ド・スル (ブラジル)

第24回夏季デフリンピック競技大会 (ブラジル) は当初、2021年12月5日～21日開催予定でしたが、新型コロナウイルスの世界的な拡大により延期が発表されました。

次のデフリンピックは2022年5月1日～15日にかけて、ブラジルのカシアス・ド・スルにて開催される予定です。日本も、2025年に夏季デフリンピックの初開催をめざしています。

2025年夏季デフリンピックを日本で！

2021年の8月に開催された東京パラリンピックを契機とした障がい者スポーツに対する理解や関心の広がりを追い風に、日本での初開催を目指しています。

<デフリンピック・クイズ>

当日は、次のようなデフリンピックに関するクイズを、いくつか掲示しました。

Q：デフリンピックのロゴマークで用いられている4色（赤・青・黄・緑）には、どのような意味があるのでしょうか？

A：4つの大陸を意味しています。

赤=アフリカ 青=ヨーロッパ 黄：全アメリカ 緑：アジア太平洋

本校には、スポーツ界で活躍している卒業生および教員がいます。現在もデフバレーの発展・普及のお手伝いの傍ら、自身も現役選手としてバレーを楽しんでいる本校教員（金メダリスト）にインタビューした際の内容をご紹介します。

試合中に補聴器は外すことが条件となっていますが、困ることはないのでしょうか？

選手一人ひとり、きこえの程度はまちまちなので、補聴器を外してのプレーに対する受け止め方も十人十色だと思います。私自身、ホイッスルの音や歓声はわずかにきこえていたので、不便を感じたことはありませんでした。コート上でのコミュニケーションも手話、目で会話するといったアイコンタクト等、目で見てわかる手立てを探りながら工夫していました。一番気にならなくてすんだことは、やじを飛ばす人の声（罵声？）でしたね。（笑）

デフリンピックの開催地では、どのようにコミュニケーションを図るのですか？

ろう者の、ろう者による、ろう者のためのデフリンピックが大変浸透されているので、会場全てどこに行っても、手がひらひらしていました。開会式および閉会式では、国際手話と開催国の手話がバイリンガルで行われていたように思います。

選手として参加したデフリンピックでは、国際手話の必要性をあまり感じていなかったため、筆談やジェスチャーなどあらゆる手段を使ってコミュニケーションを図っていました。



好きなスポーツ やってみたいスポーツ

みんなでつくる！広げる！スポーツの世界

オリンピック、パラリンピックを見て、「この競技が好き！」「好きになった！」「挑戦してみたい！」と思ったものを、来場者に記入していただきました。



<集計結果>

- 1位 野球 (17票)
- 2位 バレーボール (13票)
- 卓球 (13票)
- 4位 水泳 (12票)

他にも、バスケットボールやサッカー、バドミントンなどの記入が多かったです。また、ポッチャやモルック、サブなどの記入もありました。

See-Through Captions



透明パネルに話者の言葉をリアルタイム表示するシステム「See-Through Captions」(シースルーキャプションズ)をご存じでしょうか?自分と相手の間に置くことでパネル上の字幕と同時に、パネル越しに表情やジェスチャーなどの非言語情報も一緒に確認することを可能にしたシステムが開発されています。



現在、音声文字変換アプリが多く活用されていますが、認識結果を確認するために画面を注視する必要があり、手話や口形、相手の表情を確認することができない点に課題がありました。

「See-Through Captions」では、会話中に相手を見ながらお互いに音声認識の結果を確認することができます。認識結果の文字は、ろう・難聴者が読むことを想定しています。同時に、話し手が音声認識の結果と自分の発話に大きな違いがないか確認できるよう、同じテキストを左右反転させて表示されるシステムとなっています。

前号でもご紹介させていただいたように、コロナ禍でマスクが欠かせない日常となり、お店やコンビニなどで、相手の口形を読み取ることができず、聴覚障がいのある子どもたちは、不安や困り感を抱いています。今後、いろいろな場面での活用が期待されます。

プロジェクトページ

<https://digitalnature.slis.tsukuba.ac.jp/2021/02/see-through-captions/>

紹介動画(英語音声、日英字幕) <https://youtu.be/K1A7tm9icYM>

紹介動画(日本語音声、日英字幕、日本手話) https://youtu.be/Hy5S_I07KQg

研究室 Web サイト <https://digitalnature.slis.tsukuba.ac.jp/>

XDiversity Web サイト <https://xdiversity.org/>

近畿教育オーディオロジー研究協議会

令和3年度「冬の学習会」

1月7日(金)
申込締切

配信期間: 令和4年1月29日(土)~2月6日(日)

講師: 白澤 麻弓 先生(筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 准教授)

テーマ: 聴覚障害のある児童・生徒のオンライン授業での支援方法について

— 講演要旨 —

オンライン授業では、音が聞きづらかったり、先生の口形や表情が見えづらかったりするなど、情報が取りづらい状況が生じます。また、本来体験を通して学んでいく聴覚障害児童・生徒にとって、一方向になりがちなオンライン授業では、学習効果を高めるのも難しいことがあるでしょう。本講演では、こうしたオンライン授業のデメリットを少しでも低減し、聴覚障害児童・生徒でも学びやすい環境を作る工夫について、大学現場における実践をもとにお話しさせていただきます。

<対象> 1 聴覚障害教育(療育)に関わる教員・言語聴覚士など

2 保健医療・福祉関係者など

<受講費用> 会員は無料(会員外は 1,000 円)

<視聴方法> 講義については、事前録画した動画(字幕付与)を一定期間、配信いたします。

<配付資料> 申し込まれた方を対象に、配付資料を限定公開いたします。

詳細については、代表委員もしくは事務局からご案内いたします。

案内等が届かない場合には、事務局までご連絡ください。

<質疑応答> 後日配付予定の質問アンケート(2月7日締切)をご利用ください。

寄せられた質問については、オンデマンド配信終了後、講師よりご回答いただきます。質疑応答の内容については、2月下旬頃に、本会ホームページにて公開いたします。

<留意事項> 情報保護の観点から、動画の録画・ダウンロード等は一切不可とさせていただきます。

ご利用いただく通信環境等によっては、視聴できない可能性があります。

十分にご確認のうえ、ご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。

詳細については、教育オーディオロジー研究協議会ホームページにてご確認ください。

近畿教育オーディオロジー研究協議会 HP (<https://www.normanet.ne.jp/~kinki/>)

「みみネット」編集部:

大阪府立中央聴覚支援学校 聴覚支援センター 担当: 中咲、金森

〒540-0005 大阪市中央区上町1-19-31

TEL. 06-6761-1419 FAX. 06-6762-1800